友とともに、友のために。

我らが友、林敏弘君に捧ぐ。

君は、まだ４８歳という若さで天国へ旅立った。
我々を残して。

君が、我が高松グリーンＲＣに入会し、野球同好会に入ったのは２００５年２月のことだった。
真冬だというのに君は真っ黒に日焼けしていたのが印象的だった。
野球同好会では、野球の技術も情熱も他を圧倒していた。
新入会員にもかかわらず、全メンバーが全幅の信頼を寄せるのに時間はかからなかった。

在りし日の豪快なスイング

2010年11月14日 全国選抜福山大会にて
故 林 敏弘 （享年４８歳）

高校時代には、古豪・高松商業のクリーンナップとして高校球児あこがれの甲子園大会にも出場したという。
我がチームでは、守備の要・キャッチャーとしてホームベースを守り抜いた。

練習でも試合でも宴会でも、明るく大きな声でナインを常に鼓舞し続けた。また、練習グラウンドの予約、練習の案内、練習メニューの作成、試合参加の段取りなど守備位置同様まさしく我が野球同好会の要であった。
君が入ってから我がチームは君に引っ張られて変わった。
それまで勝利に縁が無かったのが、四国大会優勝、全国選抜横浜大会での準優勝と、まるで夢を見ているようだった。まったく野球経験がないメンバーが過半数を超える我がチームを楽しく活性化させたばかりか強くした。

君は、ロータリーの奉仕活動にも積極的に参加した。
昨年春、奉仕活動でバングラデシュを訪問した際には、現地の子供たちに多くのバットやグローブをプレゼントして、野球の楽しさを教えた。
昨年の全国選抜福山大会でも元気にグラウンドに立った。
ベンチから飛ぶ愛娘の声援に照れくさそうに微笑んだ。

勝って驕らず、負けて悔やまず。
常に前向きで明るく白球を追う君の姿は、今はもうない。
２０１１年２月２１日、最愛の妻子と我々ナインに見守られて君は逝った。

我らが友、林敏弘君。
我々は、君の教えを愚直に実践すると、ここに誓う。

楽しい野球を、クリーンな野球を、そして熱い野球を。

君の背番号 55 は、永遠に我々の心の中にいる。
君と出会えたロータリーライフに乾杯。　合掌

全国選抜福山大会　代表者会議で愛娘と

高松グリーンロータリークラブ 野球同好会一同